

## 審議会を審議する

### 一市民参加のチャンネルを拡げるために

藪田 碩哉(前・生涯学習審議会委員)

#### 生涯学習審議会における図書館戦争

町田市教育委員会の附属機関である市生涯学習審議会が新年早々「今後の町田市立図書館のあり方について」という答申をまとめた。昨年10月に教育長から、公共サービスの在り方の見直し(有体には言えばサービス縮減)が進められている中で①図書館の目指すべき姿と②再編を進める上での留意点は何かという諮問が出され、たった3か月3回の会議で答申を出すよう迫られたのである。審議会は事務局にせつつかれてともかく答えを出した。後述するようになかなか頑張った答申だが、それにしても公共施設の再編を既定事実として、その中で審議会に有無を言わず図書館の削減・統合策を考えさせるというのは、審議会を政策推進の道具としてしか見ていないと言わざるを得ない。

これには前史がある。その前の第3期の同審議会にも、行政改革の要請による生涯学習施設の存廃を含めたあり方の検討が求められていた。しかし、この審議会では、まちの未来を考えるために不可欠の「学び」の基礎条件として、図書館、博物館、文学館、美術館、資料館などの「知のインフラ」の維持こそが肝要だという答申を2018年の3月に出して結審している。財政難を錦の御旗に文化水準を切り下げるなどんでもない、見直すべき無駄遣いは他のところにあるのではないかというのがその含意であった。

業を煮やした(であろう)当局は、今期の諮問では再編計画は既存の方針だとして、それに沿うような

答申—具体的には鶴川・さるびあ両図書館の統廃合一を暗に求めて来た。しかもたった3か月という、これまでの審議会の慣行を無視した短時間での結審の要請があった。それに対して審議会委員は、両図書館の存続を求める請願の採択を盾に、具体的な数字を上げての反論を試み、今後の図書館は「あらゆる市民が利用しやすい」ものでなければならず、コミュニティの形成に寄与するものであること、また、今日的な課題である外国人との共生の支援や電子媒体への対応なども課題として盛り込んだ図書館擁護の答申を仕上げ、鶴川・さるびあ統廃合を書き込むことは回避された。

ただし「再編計画の推進」という枠をはめられたために、「再編を進めるうえでの留意点」という項目が書き込まれてしまった。そこには図書館サービスの格差があってはならないこと、図書館の持つ多様な機能の維持、新たな利用者の獲得、地域住民や利用者との対話、民間委託には慎重に、等の注文が書かれているが、再編そのものはやむを得ないというニュアンスが感じられてしまう。留意点に配慮すれば再編していいのですね、というのが当局の読み方であろうし、そこに彼らの意図があるのだろう。

#### 審議会・委員会は何のため、誰のためにあるのか

市政のさまざまな領域において〇〇審議会や××委員会が設置され、政策決定に参与している。だが、そこでどれくらい実のある討議が行われているのか。筆者自身これまでいくつもの自治体のそうした会議に参画してきたが、残念ながら、お役所の原

案を追認するだけの会議が多い(ほとんど?)と言わざるを得ない。

会議の構成員は、まずその会議のテーマに関わる専門的な知識を有する(ことになっている)学識経験者、関係機関の代表(生涯学習審議会なら小中学校の校長には指定席があり、これを「充て職」と呼ぶ)、そして公募による市民代表も1、2名選ばれることが多い。しかし、誰を選ぶかは行政が決めてしまうのだから、お上に楯突くような人が選ばれる可能性は少ない。その上、近年は「コンサル」と称する民間人が雇われて原案作成やとりまとめをやることも見受けられる。コンサルは行政の意を受けて審議会や委員会を円滑に運営することが商売である。概して市民の味方とは言い難い。

こうした審議会・委員会にどう立ち向かうか、あるいはどう利用するかというのが市民側の課題である。まずは行政の分野ごとにどんな審議会や委員会が作られているのか、その役割をチェックすることが重要である。幸い市のホームページでその情報は公

開されているはずである。審議会の答申や委員会の成果物も公表されている限りチェックしてみたい。市民にとって重要な問題がどんな風に論じられているかを知ることができる。

次には傍聴という方法がある。これらの会議は公開が原則なので、だれでも聴きに行けるはずだ。今回の生涯学習審議会には毎回、関心を持つ市民が傍聴に出かけ、そこからもたらされた議論の進展状況を基にして、審議会と教育委員会に意見書を出すことも行った。それが答申の作成に多少なりとも影響を与えたのではなかったか。また、個々の委員に働きかける方法もあるし、市民委員に応募して会議自体のメンバーになる道もある。

市民が市政に参画するチャンネルとして議会はもちろんもっとも重要な装置だが、行政を取り巻く審議会・委員会についても市民によるウォッチングを進め、市民の役に立つ審議会・委員会として機能させていかななくてはならない。

## 川崎市で起こっていること

岡本 正子(川崎の文化と図書館を発展させる会)

### 1. 再開発計画は、だれのため?

宮前区の東急田園都市線鷺沼駅前再開発に伴い、区役所・市民館・図書館の移転が検討されている。この「宮前区のミライを考える さぎぬまプロジェクト」は、2018年2月に新聞報道されたが、十分な周知や熟議が進まないにもかかわらず2019年3月には基本方針が決定されようとしている。

市の説明では、現在の区役所・市民館・図書館を鷺沼駅前に移転するか、あるいは現在の場所に置き続けるか、どちらかを選択するという。23万人の宮前区民にすれば、現在一か所しかない公共施設が2か所になるなら利便性が増すというもの、朗報かと思いきや、両方を選択することはできない、どちらを選ぶかを検討するという。どちらか一か所となると住民の利害が対立し、区民の分断を生むことになる。

区全体のバランスを欠く、こんな強引な進め方で急いで移転を検討するのはなぜか。市長への手紙

の回答や市の説明によれば、民間事業者の再開発計画という千載一遇の機会に鷺沼駅周辺に公共機能を充実させる可能性ができた。だから、まだ使えるにもかかわらず宮前区役所・市民館・図書館の移転を検討する。しかし移転するなら、再開発事業に間に合わせなければ実現できない。しかも、市の財政上2か所はあり得ないというのである。民間事業のスケジュールに合わせて、じっくり時間もかけず公共施設の将来を決めてしまうということか。

### 2. 川崎市の図書館の現状と市民から見えた変化

宮前区は人口23万人、図書館は現在の宮前図書館(昭和60年設立・延べ床面積1,448㎡)1館のみである。川崎市の人口は150万人、7区からなり図書館は閲覧所を入れて13館。自動車文庫は1台。1館当たり11万5千人以上と政令都市の平均を下回っている。実際、図書館に行くのに不便を感じている人は多い。本来図書館の望ましい設置基

準は、中学校区に 1 館といわれる。川崎市には 51 校の中学校がある。現状では、住民だれもが歩いて行ける所に図書館があるとは言えない。資料費についても、人口 150 万人規模の自治体にして約 1 億円、1 人当たり約 66 円。職員数は、職員 (79)、嘱託 (44) を含めて 123 人、1 人の職員に市民 10,900 人のサービスがかかっていることになる(「川崎の図書館 川崎市立図書館活動報告書 平成 29(2017)年度」)。

児童サービスでは読み聞かせが主な事業としてあるが、担っているのは多くがボランティア団体である。麻生区では、図書館開館当初(昭和 60 年)はボランティアと職員と一緒に学びながら実践していたが、現在は一緒に学ぶ機会はほとんどない。宮前区では、図書館を補うように市民の文庫が存在する。

川崎市では、2003 年にインターネットでの検索・予約を可能にし、予約冊数を増やしたことから職員が忙殺され、2004 年にカウンター他一部業務を民間委託した。窓口の業務委託は、利用者と職員との距離を拡げ、図書館サービスの劣化を引き起こしている。現在の川崎では、図書館が誰でも使いやすいものになっているだろうか。職員が意欲を持って働けるところになっているだろうか。本来、図書館は誰にでも便利に使える公共施設のはずである。図書館にアクセスしやすい人だけをサービス対象とするのではなく、市全体へのサービス網の充実を図るべきである。その努力は、川崎市総合計画にも、かわさき教育プランにも、見られない。

### 3. 川崎市の図書館行政―「新しい図書館は作らない」と教育長の発言

川崎市教育委員会は、市議会での質問(2018.12.14)に答えて今のところ新しい図書館をつくるつもりはない、と言っている。その方針は、いつ、どこで決まったのか? 現実には、図書館のサービスを十分に受けられない市民がいて、その改善を講じるのが自治体の務めのはず。しかし、川崎市の総合計画に、図書館の記述は蔵書数と来館者数の

数値目標を掲げ、効率的・効果的運用とあるが、目指すべき図書館の将来像は示されていない。

「さぎぬまプロジェクト」の説明資料に、大和市のシリウスや周南市のツタヤ図書館などが示され、近年話題の利用者が増えた複合施設をイメージさせる。駅前図書館が図書館として優れているとは一概に言えない。そこまで鷺沼駅前にこだわるのは、住民へのサービスより利用者(賑わい)の数字を優先しているようで、本当に「宮前区のミライ」の図書館を考えていると思えない。

理想の図書館は、基幹図書館の他は、生活圏に図書館があること、まずは図書館が増え、館種を超えた図書館ネットワークの形成されることで住民サービスの向上につながる。また、図書館は、利用人数だけの評価では見えない様々な重要な役割があることを、図書館の専門家も含めて考えてもらいたい。

本来なら、図書館直属の図書館協議会で、図書館について市民と行政が話し合い、図書館の理想を追求し、専門家と住民の意見が反映された図書館施策が策定されるべきだが、川崎市では 2016 年から図書館協議会が廃止され、社会教育委員会議所属の図書館専門部会となり、組織上図書館から切り離された。

図書館という施設一つとっても、その機能や市民から寄せられる期待、果たすべき役割から考えると、もっと深い議論と考察が必要である。だから、今回のように、市側からの一方的な説明ばかりで、2 月にパブコメを募集して決める、というのは、とても民主的とは言えない。公共施設は住民の生活に身近な施設、その機能ごとに、異なる意見も含めて議論し、住民参加で時間をかけて「ミライ」を見据えて検討するべきではないか。

まちだ未来の会公開質問状への回答について「未来の会」が昨年 12 月 8 日付で教育長宛てに出した「町田市立図書館のあり方見直しに関する公開質問状」の回答が 1 月 17 日(木)に文書で出されました。郵送ではなく、話をしながら手渡したいとのことでしたが、回答は極めて不満足な内容でした。詳細は次号で報告します。



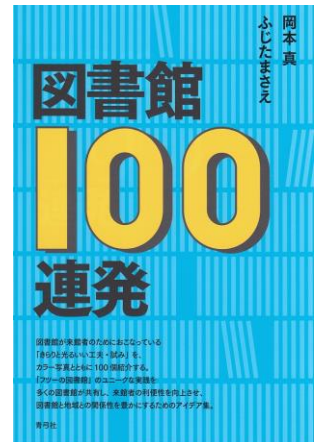
こんな本み～つけた！(第13回)

## 『図書館100連発』

岡本 真 著 / ふじた まさえ 著

(青弓社 2017年)

紹介:石井 一郎(さるびあ図書館)



1月6日の読売新聞多摩版に図書館の記事がありました。小平市立図書館で行った全国各地の地方新聞の元日付紙面の巡回展示と調布市立図書館の絵本みくじのイベント記事です。図書館では、本の紹介や利用案内など、利用者向けにいろいろと工夫しています。

本書は、図書館の来館者のために行っている工夫や試みの100事例を紹介した本です。著者が全国の図書館を見て、面白いと思った事例を写真とともに解説しています。事例の中には町田市で行われているものもありますが、読んでいて感心させられるものがあります。

須坂市立図書館では、入り口の階段わきに咲いているツメクサの花の説明とレファレンスの案内をした貼り紙。筑西市立図書館では、イベント案内を折って手紙にしての配布。南風町立図書館では、休館日に来館した利用者のために、「琉球新報」など

の新聞書評やお知らせを屋外に張り出して、情報提供を行っています。田原

市立図書館や白河市立図書館では、本の注文書を置いて市内の書店での購入を薦めています。それ以外にも面白い事例が載っています。

私もさるびあ図書館で、気になった新聞のスクラップ記事にコメントをつけ、新聞コーナーや読書室に掲示しています。先日、そのスクラップ記事をお読みになった利用者から、指名を受けて話す機会があり、新聞記事に関連した話ができました。

本書は、図書館員としては一つの試みから、利用者に図書館でいろいろ発見してもらえるヒントになり、利用者にとっては図書館の見方を変えることができる可能性を持つ本です。

(会員)

## 「鶴川図書館が危ない！」

—お年寄りや子どもたちは駅前図書館まで行けません—

まちだ未来の会 第18回学習会報告 鈴木 真佐世・手嶋 孝典・守谷 信二

はじめに(蘭田)

18回目をむかえた今回は、行動のための学習会にしたい。

### 1. 鶴川図書館廃止方針の経過と背景(守谷)

町田市は、6月に「再編計画」を完成。市民からいろいろと意見が寄せられたが、原案を変えることなく、統合計画を着々と進めようとしている。文学館については、今年度中にあり方を決めるとして、指定管理導入の方針を打ち出している。図書館については、10月22日(月)の第5回生涯学習審議会で、

「町田市立図書館の在り方見直しについて(案)」という資料が配布されて諮問がなされた。次の11月13日(火)の審議会では、役所側から答申案のイメージも出され、委員長からは「上位計画である再編計画で決まっているから」とのことで、「見直し案」に反対する議論ではなく、実行された際に出来る限り市民の意見を反映する方法を考えたいとの意向が示された。

次回の審議会は、12月21日(木)。進め方がおかしいと感じた委員も多いが、根幹は変わらないの

ではないか？

## 2. 「見直し案」を読んで感じたこと(手嶋)

諮問事項: 今後の町田市立図書館のあり方について

1. 図書館の目指すべき姿について
2. 再編を進めるうえでの留意点について

生涯学習審議会への諮問は、集約化対象図書館の方向性について、その是非を問うものではなく、鶴川図書館を鶴川駅前図書館に集約する方向はすでに決まっている。前提を動かすことができないのでは、審議会の存在意義がない。

生涯学習審議会での議論は、わずか3回、計6時間。それで答申を出すことは、審議会の在り方として異常と言わざるを得ない。

【検討の背景】「町田市 5 カ年計画 17-21」(行政経営改革プラン)は、「図書館のあり方の見直し」として、「貸出冊数は減少傾向にあることなどから、効率的・効果的な図書館サービスの提供を検討するとともに、8箇所ある図書館の再編を推進」するとしていたが、2018年6月に策定された「町田市公共施設再編計画」で、図書館は「集約化や複合化・多機能化」などを進めていくことが決定された。

「貸出冊数は減少傾向にあること」の原因を分析することなしに、いきなり「集約化」の方向性を打ち出しているが、貸出冊数の減少の最大の原因は、資料費の激減にある。

【図書館の役割と町田市立図書館の運営理念】町田市立図書館の運営理念(2013年4月)に基づいた図書館運営は、今後も図書館の拡充を要請しているはずである。

【施設の現状】『鶴川図書館と鶴川駅前図書館』の利用圏域の重なりが大きく、「さるびあ図書館は中央図書館と大きな利用圏域の重複が見られる」ことを根拠に「集約化」を図ろうとしているが、1.5kmの距離は子どもや高齢者にとっては徒歩圏とはならず説得力に欠ける。鶴川図書館と鶴川駅前図書館あるいはさるびあ図書館と中央図書館の間に住んでいる人たちはともかく、そうでない殆どの人たちにとっては、1.5km以上の距離になってしまう。

【全国の中の町田市】「人口40~50万人未満かつ自治体面積100K㎡以下9市(政令指定都市・

特別区を除く)」との主要指標の比較を行い、「全てで平均を上回っており上位に位置している」と分析しているが、近隣の多摩地域との比較をすべきである。多摩地域は「市民の図書館」の発祥地としてかつて全国の図書館作りをけん引した地である。経常経費の比較では、自治体によってコンピュータ経費を入れたり入れなかったり様々で単純に比較できない。図書館費用は全体予算の1%必要とされているが、町田市は0.3%に満たず、資料費は、図書館の総経費の20%必要とされる中、十分の一の2%であり、全国の水準に達しているとは言えない。

【利用状況】市立図書館全体の利用状況は、「市民意識調査」によれば「この1年間に利用した市民」は47.3%にも達しており、図書館が市民に定着していることを表している。登録者数は確かに漸減しており、貸し出しが減っていることも含めて原因を究明しなければならない。

個人貸出数の減少は、資料費の大幅な削減が最大の原因である。視聴覚の貸出数の減少も同様である。移動図書館貸出数の減少は少子化と学校週5日制により、児童の利用が減っていることが最大の原因であろう。レファレンス受付件数が減少傾向にあることは、インターネットの普及によるものと考えられるが、地域資料受付件数は増加傾向にある。

【市民のニーズ】「市民意識調査」では、「図書館に期待すること」に「図書の充実」が59.5%と6割弱を占めることから、図書館に対する期待は大きい。「図書館数は今のままでよい」は23.0%、「厳しい財政状況の中でも、図書館の施設や事業は充実し、これまで以上のサービスをうけるようになる」が19.9%あり、現状維持またはそれ以上のサービスを望む声が42.9%にも達している

一方、「現在の図書館を減らすのもやむを得ない」という意見は、11.2%にとどまっている。これが民意である。市議会はさるびあ図書館、鶴川図書館の存続を求める請願をそれぞれ全会一致で採択しており、これらを見捨てることは決して許されることではない。

【図書館の適正配置の検討】1.5kmの距離に図書館がない人たちのために、サービス空白地帯をなくすことが先決である。

【施設の老朽化等への対応】鶴川図書館は、URの建てかえ計画に図書館を入れているので、それに対応すれば済む。さるびあ図書館の老朽化への対応も、あまりお金をかけずに改修は可能と市内在住の建築家が断言している。

【貸出冊数減少への対応】何よりも資料費を回復することが求められている。

【めざす姿と運営の基本方針】「町田市立図書館のめざす姿」を「地域の情報拠点として、多くの市民に役立つ図書館」として設定すること自体は間違っていないので、それにふさわしい地域館数、資料費、職員体制を確保することが求められる。

【図書館運営の基本方針】これを保障するには、地域館を増やすことが必要であり、減らすなどもつてのほかである。

【再編検討図書館の方向性】「市民意識調査」では、図書館の現状維持や充実を求める市民が40%を超えている一方、予約した本を受け取ることができないサービスがあればよいという意見もあったとしているが、13.3%しかない意見を42.9%が支持する意見と対等に扱っており、あまりにも偏った扱いと指摘せざるを得ない。

移動図書館については継続していく必要がある。

【第3次日野市立図書館基本計画】最後に、日野市の取り組みを紹介する。第3次日野市立図書館基本計画では、「暮らしの中に図書館を本と出あい、人と出あう『知のひろば』が地域の文化を創る」を基本理念とし、さらに5つの基本方針のもとに施策を推進しようとしている。

#### <質疑>

○図書館の比較を多摩地域でしてほしいというのはなぜか？

A・多摩地域では、日野市が1965年9月に移動図書館1台から出発したが、資料費を500万円、翌年は1000万円に増額して利用者を圧倒的に増やし、府中、町田、調布へ影響を与えた。更にそれが全国に波及した。60年代後半から70年代前半にかけての動きを浪江虔氏は「図書館革命」と名付けた。今も多摩地域の水準は高い(町田市はこのなかで資料費は最低)なので、全国的に見て高いのは当たり前になる。

○全国いろんな地域があり、事情が違う。比較するのなら、近所ではないか。

○どっちに住もうか考える人にとって、近くの地域との比較に意味があり、より魅力を説明できる。

○「全国の中の町田」の資料は、町田がいいところだけを拾っている。

○近隣の市では、武蔵野市の図書館は、来館者が1番多く、資料費が多い。町田は、地の利のせいか2番。しかし資料費は最低。多摩境に図書館を作ってほしいという要求がある。子育て世代に移住を呼びかける戦略となるのではないか。

### 3. 鶴川図書館の現状と廃止問題(鈴木)

市民意識調査のデータをみると、鶴川図書館は、小規模であるにもかかわらず、市の図書館の中では4番目に多く使われている。また、世代別の統計では、男女とも40代の利用が多く、子育て世代が子どもと共に多く利用していることが読み取れる。貸し出し数の減少については、年報『町田の図書館』の10年間の数字から、資料費の減額との関連がグラフでははっきりと読み取れる。駅前図書館開館時に資料費が激減しその後の減少とともにピーク時の三分の一を切ってしまった。

○団地の再生、図書館の存続を願って(鶴川団地商店街事務局長 富岡氏)

団地の建て替えの具体的な計画はまだ決まっていない。センター地区の再構イメージとして、別棟に図書館と郵便局を入れる案がある。太陽の広場は残る。

町づくりでは、人の集まる場所がある。図書館はぜったいにほしい。

### 4. これからの対応—市長あての要望書について(鈴木)

請願をして採択されたが、市の方針は変わらない。これから要望書を出すことを考えている。署名を1月いっぱい集め、2月18日の議会の前には出したい。予定としては2月3日からの週で市の秘書課にアポイントをとり、市長に手渡したい。

3月議会で見直し案の行政報告がある。

○要望書なので、「新しい住民を見込めますよ」というように入れた方がいいと思う。

○団地の建て替えは、まだ決まっていないし、決ま

ってから使えるまでには14年かかるだろう。

要望事項に入れるのであれば、「〇〇の建て替えにあわせて」というような記述がいいのか？

○集約化は納得できないこと、近くでないと利用できないこと、資料費を回復させること、建て替えするときの対応を要望したい。

○団地の再生のために、図書館は必要。図書館を削ってしまうことは、にぎわいや活性化を阻む。

○署名を集める時、読む文章が長いと困る。わかりやすくしてほしい。

○フォントや、数字で配列を強調する？

○市長への要望書なので、趣旨をきちんと述べる必要はある。

## 5. 教育長宛て「公開質問状」について(守谷)

町田市には、昭和40年代？に日本図書館協会に委託して作られた図書館施設構想があるが、現在でも有効な公式の施設計画はない。図書館協会の計画は確か13館構想。その後、内部的には最低でも11館は必要と考えていた。

公開質問状は「配達証明郵便」(\*実際には「特定記録郵便」)で送り、1月16日(\*18日に修正)までに文書回答を求める。議員、マスコミにも趣旨と質問状を送付する。その後、次の段階は、教育委員会への請願が考えられる。

### <参加者による話し合い>

○生涯学習推進計画 2019-2023 では図書館事業計画は作成しないと書かれている。なぜなのか？

子ども読書活動推進計画は作成することのこと。

○生涯学習センター運営協議会では生涯学習推進計画について議論した。

○運営協議会では教育プラン原案が配られた。

○生涯学習審議会の進め方については反撃する必要があると思うが、方法は？

鶴川図書館の問題を取り上げて記録を残させることもいい。

○傍聴して、言ったことと記録が違っているところがあった。委員は言わないように言い含められているような感じがあった。

○パワーポイントのデータは配って見たらどうか。

○(川崎の文化と図書館を発展させる会の岡本さん):同じことが起こっていると感じた。今、宮前区鷺

沼駅前開発で、東急が市民館・図書館・区役所が入るビルを建てる計画があり、2月パブコメ、3月議会で決定する。現在ある宮前の図書館は閉館となる案で、23万人の市民は、全部移転か現図書館は残すかで分断されてしまう恐れがあるが、川崎市はこれ以上図書館は作らない方針。11月29日学習会を行い、次回の学習会(1月28日)には、未来の会の方が来て話してくれないだろうか？

○複数で行くようにしたい。

### 次回の提案(守谷)

鶴川図書館問題の学習会を現地に近い鶴川市民センター第1会議室(\*和室(1)に変更)で1月26日(土)に行う。学習会の前に鶴川図書館に行つて、図書館前で署名を集めるなど、行動を考えたい。おわりに(蘭田)

決してあきらめない。

## 平成30年度東京都多摩地域公立図書館大会

『地域に働きかける図書館 ~今考える図書館の役割 平成から未来へ~』

★2月7日(木)午前10時(受付:9時30分)

第1分科会 館長協議会

『地域に向き合う図書館—その役割と課題—』

講師:山口源治郎氏(東京学芸大学教授)

★同日 午後2時(受付:1時30分)

第2分科会 三多摩地域資料研究会

『市民と構築するデジタルアーカイブ』

講師:坂井知志氏(常磐大学コミュニティ振興学部教授)

★2月8日(金)午前10時(受付:9時30分)

第3分科会 障害者サービス研究会

『改正著作権法と図書館の障害者サービス』

講師:佐藤聖一氏(埼玉県立久喜図書館障害者サービス担当司書主幹)

対象:図書館職員及び一般の方(入場無料)

申込:一般参加者は不要、当日会場へ

会場:東京都立多摩図書館2階セミナールーム

主催:東京都市町村立図書館長協議会

問合わせ:東京都多摩地域公立図書館大会実行委員会事務局 武蔵野市立中央図書館

☎ 0422-51-5145



## 例会 12/25 (火) 報告

- ・16:30～印刷・発送作業等:  
鈴木(真)・手嶋・松下・守谷
- ・18:20～19:30 中央図書館・小集会室  
出席:鈴木(真)・手嶋・松下・守谷

### 議題

#### 1. 会報について

(No231):巻頭言、図書館まつりについて(増山)または藺田さん(まちだ未来の会代表)⇒生涯学習審議会のあり方について(藺田さん)、川崎市の状況について(岡本さん)。「こんな本見～つけた!」第13回(石井)、まちだ未来の会第18回学習会記録(手嶋)

#### 2. 今年度の活動計画について(変更なし)

#### 3. 「町田市5ヵ年計画17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

##### まちだ未来の会の取り組み

##### ・学習会

##### 第19回学習会

「鶴川図書館が危ない!ー鶴川図書館の存続を求める緊急集会ー」

日時:2019年1月26日(土)午後1時30分～4時

会場:鶴川市民センター 和室(1)

内容:1. 鶴川図書館廃止問題の経過と背景

2. 鶴川名店会の建替えと鶴川図書館

3. これからの取り組み

申込み:当日直接会場へ/資料代300円

★アピール行動:午前10時30分より鶴川図書館周辺

で、存続を求める市長宛「要望書」への署名活動

第18回学習会⇒実施済み(16名参加)

「鶴川図書館が危ない!ーお年寄りや子どもたちは駅前図書館まで行けませんー」

日時:12月8日(土)午後2時～4時30分

会場:市民フォーラム 4階 第1学習室A・B

\*鶴川図書館の存続を求める要望書を出す。

・「町田市立図書館のあり方見直しに関する公開質問状」について

12月8日付で教育長宛て提出、1月18日(金)

までに回答を求めている。⇒1月17日(木)回答。

※公開質問状の本文は、「すすめる会」ホームページ内の「未来の会」のページにPDF版を掲載。

「すすめる会」の取り組み(省略)

#### 4. 学校図書館指導員について

学校司書設置の方向で検討が進んでいる。教育プラン(案)には学校司書が配置されるとあり。16人とあるがどのように配置されるか不明。

#### 5. 第8回まちだ図書館まつりについて

##### 第2回実行委員会報告

12月5日(水)午前10時～12時 中央図書館

「すすめる会」の取り組み:久保企画案

「故郷(ふるさと)の物語/人と土地をつなぐもの」

①上映とお話/今井友樹監督

②テーマについて語れる町田市の方(2名くらい)をゲストに招いて、今井監督と談話。

\*会場には、町田市の関連の図書、および古地図など資料を展示する。

#### 6. 生涯学習審議会への諮問「町田市立図書館のあり方見直しについて」について

来年1月9日(水)に答申が出されることになっている。⇒1月9日(水)に答申が出された。

・審議会の議論を教育委員会も無視できないはず。

・以前にも指摘したが、資料費削減により貸出数が減っていることが取り上げられなかった。

#### 7. 町田市生涯学習推進計画2019-2023(原案)について

図書館協議会に意見を求められている。

・図書館協議会委員は、山口委員長にメールで発信した。

図書館事業計画がなくなる。

・教育プランとの整合性に問題があったということから生涯学習推進計画に一本化するということらしいが、突然出てきた話。行政に計画がないのはどうなのか。

### 報告

#### 1. 団体及び個人からの報告

図書館嘱託労:11月21日(水)団体交渉(会計年度任用職員制度)。

・検討しているだけで、何も決まっていない印象。

雇止めの問題も浮上している。

《編集後記》町田市生涯学習審議会は、何時から行政の追認機関になったのか、「巻頭言」熟読を!(T2)